

福井県原発事故避難訓練に参加して・・・

報告 菅野みずえ

- 場所・・・安定ヨウ素剤配布場所としての若狭町上中庁舎
- 参加者・・・自家用車3台 2台のマイクロバスで住人40人(10～20代女性が多い)
松寿苑(利用者ではなく職員が利用者に扮し参加) 保育園5歳児5名
- ヨウ素剤配布・・・庁舎2階で見学席あるとのことだが立ち入らないよう玄関に立札あり
自家用車3台は外のテントで。見学用に仕切りあり。原子力防災の腕章を付けた人と日本経済新聞の記者2名。一般見学者は石地さんと二人だけ。車が来る度に県職がメガホンで説明
- 車へのヨウ素剤配布に要した時間1台50秒
- 問診?・・・「ヨウ素剤を配布します。アレルギーはありますか?」のみ。子どもに飴、大人に小さなゼリーを配布。ヨウ素剤にみなしている。誘導の県職は20代と見える女性と3～40代の男性の二人。作業服に「タイベック(防護服)着用」と書かれたベストを着用。防護服は暑いからとのことらしい。つまり防護服着用しているつもりよ。の意らしい。

県職コイズミ氏が丁寧に質問に答えてくれた。

- ・ヨウ素剤はいつ服用? 指示が出ますので避難時に服用いただきます。
- ・どうして若い女性を誘導させるのですか。女性は男性の6倍放射性物質に敏感だと聞きます。事故の時を想定するならリスクも同時に想定すべきでは? 今後の参考にさせていただきます。
- ・ヨウ素剤配布、アレルギーのリスクを言う割に車の問診いい加減すぎませんか。アレルギーは?と聞いただけですよ。何のアレルギーが分からないし、リスクを言うならリスクのあるこの薬を服用していませんかと、薬の名前や種類を聞くべきではありませんか? え?それだけしか聞いてませんか。(動揺?) 確認し今後の参考にさせていただきます。
- ・車はそれくらいの問診でも1台50秒かかっていました。実際の避難が必要になった時役に立つでしょうか? 福島事故を知っている県民が訓練の時のように行動できると思いますか? それは・・・

小浜で泊めていただいたので、朝9時に有線放送が大音量で「原発爆発事故の避難訓練を行います。」と告げはじめ、携帯電話には訓練を告げる一斉メールが送られてきました。「屋内退避をしてください。窓を閉め、換気扇を止めてください」と何度も伝えていました。

3.11の時、屋内退避の連絡とはこんなものとは違いました。窓を閉め、外へは出ないでください。換気扇を新聞等で目張りし、外からの空気が入らないようにしてください。石油ストーブは換気できないのでつけないでください。エアコンも外からの空気が入ります。つけないでください。車はエンジンを切りエアコンを切ってください。それがいつ解除になるかもわからない、もう終わりかもしれないという緊張でした。

監視行動に参加し、何のための避難訓練か、全く分かっていないことが露見していました。この訓練は放射性物質からの避難です。それが全く配慮されていない。目的を見失った避難訓練でやったというアリバイ作りで税金の無駄使いでしかないと思われました。やらなければならないが、怖さを実感させないための苦肉の策でしょうか。以上報告とします。